

湯里の“人”と“豊かな地域資源”を守り、 次代に残し伝えるプロジェクト

湯里まちづくりセンター

1 湯里まちづくりセンターの概要

大田市の中心部から国道9号を西に30分下ると温泉津町湯里がある。大きく2つの地区からなるこの地域は、海辺から山間部に向かって延びる県道湯里停車場祖式線に沿って集落が広がっている。秋の風物詩ヨズクハデと希少価値の高い西田葛は近年マスコミにも多く取り上げられ、よく知られているところだが、ほかに西条柿、わかめ、炭の生産も伝統的に行われている。また、世界遺産石見銀山遺跡の一部であるところから、ウォーキングシーズンになると訪れる客も見られるようになってきている。

面積18.72km²、世帯数304世帯、人口640人、高齢化率45.7%（H25.2.1現在）で過疎・高齢化の道をたどっている。地域の中心的存在であった小学校が平成22年度末に閉校した現在、保育園がただ1か所、子どもの声が聞こえるところとして存在している。また耕作者の減少に伴い中心部でも耕作放棄地が目立つようになってきたが、一方では休耕田を利用して共同で作物を作っているグループも見られる。

湯里まちづくりセンターは地域づくりの拠点として、平成21年にそれまであった公民館に代わって設置された。地域の各種団体と協力しながら、通学合宿、世代間交流、乗り合いタクシーなどの事業を展開している。また地域の諸行事についても実行委員会を立ち上げ、地区民が協力して行うことが常となっている。

近年、地区を横断する高速道路の建設が始まり、数十年ぶりに湯里の景観が変わろうとしている。今こそ新たな視点で地域づくりを行う好機ととらえている。

2 事業の概要

(1) 事業のねらい

ア 高齢者の生活支援を行うことで対象世帯の負担を軽減する直接的な効果を得るとともに、居場所づくりを進め、地域での助け合いの精神の醸成と「小さな町でも住んで良かった」と思える地域づくりを推進する。

イ 地域資源や特産品の利活用による交流人口の拡大を図るとともに、地元の歴史や文化の再認識環境整備に対する意識高揚など、地域の一体感をさらに高める。

(2) 具体的な取り組み

ア 高齢者を対象にした地元商店による買い物支援制度の創設について

(イ) 買い物支援事業に関するアンケートの実施

4年前から実施している湯里地域予約乗合タクシー利用者90名を対象にアンケートを実施し、住民のニーズを把握した。

(イ) 地元商店及び農協へ出かけ買い物支援事業に対する意見、希望等を聞いた。

イ 高齢者の居場所づくり ～「湯里カフェ」

- (ア) 第1回（9月27日） 男性の料理教室（10名参加）に併せて行い、地域の高齢者10名とともに会食をした。
- (イ) 第2回（12月13日） 地元の手打ちそば同好会に協力してもらって行った。午後からは落語会も併せて行った。参加者は約50名。
- (ウ) 第3回（2月24日） 午前中の婦人会終了後から午後の地区文化講演会開演までの時間を使って開催する予定である。



第1回カフェ(9/27)



第2回湯里カフェ(12/13)

ウ ヨズクハデの制作技術の継承活動

- (ア) 「酒仙蔵人五郎の会」の稲刈り活動に併せてヨズクハデ制作講習会を行った。（9月8日）参加者は五郎の会会員30名、地元参加者20名で講師は地元のヨズクハデ保存会が務めた。
- (イ) 温泉津小学校5年生児童18名の稲刈り体験に併せて、ヨズクハデ作りを教えた。（9月18日）参加者は小学生のほか、ヨズクハデ保存会10名。
- (ウ) ヨズクハデの制作過程を表したパネルを作成し、講習会開催時に活用した。



酒仙蔵人五郎の会:ヨズクハデ作り



温泉津小5年生:ヨズクハデ作り



ヨズクハデの作り方パネル

エ 銀山街道の環境保全活動とその活用

- (ア) 湯里地区の銀山街道調査を行った。湯里地区の銀山街道を守る会が中心となり、世界遺産の街道としての文化価値を再認識するとともに整備保全状況を調査した。（6月17日、参加者18名）



湯里地区の銀山街道調査

(イ)湯里地区の銀山街道及び街道近くの温泉城登山道の草刈り等、環境整備を行った。(8月26日)

(ウ)銀山街道にベンチを据え付けた(10月18日、参加者7名)



温泉城登山道の草刈り



ベンチ据え付け作業

(エ)山陰中央新報社主催の「銀の道ウォーク」イベントが開催され200名を超える参加者があった。ひまわりの会、レディースクラブの協力により、地元の食材を生かした葛カレーと杵つき餅を提供した。(10月20日)



銀の道ウォーク:昼食(葛カレー)

(オ)「銀山街道湯里マップ」を2,000部制作した。

オ 旧湯里小学校校舎の利活用

(ア)第1回、第2回の湯里カフェの開催場所として提供した。(前出、(2)イ)

(イ)島根県文化振興財団、海神楽×コンテンツポラリーダンス事業により、コンテンツポラリーダンスチーム、山田うんカンパニーの1週間の合宿を受け入れた。食事の世話等を配食ボランティアグループが交代で行った。



山田うんカンパニー:朝食風景

3 事業の成果と課題

(1) 高齢者を対象にした地元商店による買い物支援制度の創設について

アンケートは100%回収でき、買い物支援を願う人が68%あった。創設にあたっては継続性や利便性の観点から、商店の選定や支援の内容等、細部にわたって検討していく必要がある。

(2) 高齢者の居場所づくり ～湯里カフェ

ア 今年度は試行段階であったが、既存のグループ(男性の料理教室、手打ちそば同好会)やパン作り・お菓子作りの好きな個人の協力により、開催することができた。食の提供をした人もお客としてきた人もカフェを通じて交流ができ、次回を期待する声が聞かれた。

- イ 食の提供者は材料費等を売り上げで賄うことができ、またお客も手ごろな価格で買うことができ、双方とも満足していた。
- ウ 炊飯器などの道具、食器、エプロンなど、回を重ねるごとに順次揃えていくことができ、次第にカフェらしくなってきた。
- エ 責任を持ってカフェを運営していくグループを立ち上げることが来年度の課題である。

(3) ヨズクハデの制作技術の継承活動

- ア 小学校児童の体験学習や酒仙蔵人五郎の会によるヨズクハデの制作活動は今までも行われていたが、地域力醸成プログラムによって、単なるイベントから制作技術の継承活動としてとらえることができた。ヨズクハデ保存会にも新しい会員が加わり、後継者の育成にも明るい兆しが見え始めた。
- イ ヨズクハデ制作過程を表示したパネルの作成は継承活動に役立った。
- ウ ヨズクハデ継承のためには稲作の継承も必要である。難しい課題である。

(4) 銀山街道の環境保全活動とその活用

- ア 湯里地区の銀山街道を守る会を立ち上げ、銀山街道及びその周辺の環境保全活動について意識高揚を図るとともに、保全活動をすることができた。
- イ 石見銀山世界遺産登録5周年と重なり、ウォーキングイベントが殊のほか多かった。地元の女性グループが連携し地元食材を使った食の提供を行ったことは、来訪者との交流だけでなくグループ間の交流にも拍車をかけた。
- ウ 「銀山街道湯里マップ」を基にした看板を街道沿いに設置する必要がある。
- エ 環境保全だけでなく街道やその周辺にまつわる地域の歴史にも目を向け、その保存にも関心を持つことが必要である。

(5) 旧湯里小学校校舎の利活用

- ア あらゆる機会をとらえて校舎を利用してきたので、校舎への愛着が生まれつつある。校舎や校庭の清掃活動、花壇作りなどのボランティアには大勢の参加があった。
- イ 湯里カフェや地域の歴史や産物の展示など環境を整えて、他地区からの来訪者を増やし、交流の場として定着させることが課題である。

4 今後の方向性

湯里は旧湯里小学校、西田はヨズクの里を拠点にして地域にある誇るべきひと・こと・ものを使って交流人口を拡大するとともに、住民同士の絆をさらに深め、活気のある、住んで良かったと思える全員参加型の地域づくりを目指す。